

2013年度 事業報告書

(2013年4月1日～2014年3月31日)

<はじめに>

日頃の活動を見直し、新たな目標への方針を承認していただく総会を迎えます。この一年も「WEショップ」という拠点を通して多くの人と物の交流が日々行われ、新たな出会いや物の再評価・再活用場を作り出してきました。寄付品をいただき支援に結び付けるシステムは分かり易く理解され易いものですが、一年間変わりなくショップ事業を続けるためには、多くの協力が必要です。中でも優先順位を上げてでも関わろうとして下さる強い気持ちがあったからこそ、出来たこともありました。感謝しつつより広く多くの方々への周知と呼びかけに努力すべきと考えています。

海外支援や震災支援を続けていくことで、相手を知り理解し、大きくとらえて平和・貧困・原発問題などを考える機会がありますが、現政権の動きは先行きに不安を増すことばかりが続いています。消費税8%の影響を実感するのもこれからでしょう。虚しさ、もどかしさの中でも情報を正しく得ることが大切だと思います。

私たちの活動は小さなものに見えますが、つながっている先には個人ではできない大きな成果が得られています。満14年、11年と両ショップで継続してきた活動に自信を持ち、これからもより良く成長していきたいと思えます。

1. リユース・リサイクル推進事業

(1) 「WEショップとつか」、「WEショップ東戸塚」の運営をしました。

WEショップとつか

売り上げは、5,572,885円でした(前年度 5,568,965円 前年比 100.07%)。このうち年間556,000円をWE 21 ジャパン本部への事業委託金として支払い(556,000円の1%は非営利会計が分担) WE 21 ジャパンとつか(非営利会計)へは100,000円繰入しました。

セールやフェアなどのイベントを組み合わせることで前年度と同等の売り上げを上げることが出来ました。特に着物フェアはショップ近くの花房を借りることができ、通常のショップと相乗効果をあげられました。

年度途中からスタッフを二人体制に出来、ショップ運営については相談しながらすすめて来ることができましたが、ボランティア不足はなかなか解消できませんでした。

WEショップ東戸塚

売り上げは、3,671,036円でした(前年度 3,781,355円 前年比 97.08%)。このうち年間392,000円をWE 21 ジャパン本部への事業委託金として支払い(392,000円の1%は非営利会計が分担) WE 21 ジャパンとつかへは30,000円繰入しました。

今年度からスタッフが一人体制になり、ボランティアがシフトを担当してくださいました。ショップ運営に関しボランティアの参加頻度が格段に高まりました。さらに、おおぜいの協力で、アクセサリーフェア・バッグフェア・着物フェアを開催することができました。しかし、売上及び来客人数は昨年度より減っていて、もっと外へアピールしていく必要があります。

(2) 販売できなかった衣類については、提携先のファイバー工場(ナカノ)に搬入し最後までリサイクルに責任を持ちました。また、販売できなかったガラス、陶磁器については2ヶ月に1回のキャリー便での回収に出しました。

2. 支援事業

(1) WE21 ジャパンとつか独自支援

今年度は、3団体へ250,000円支援しました。

- ①団体名：緑のサヘル
ブルキナファソ（西アフリカの国）コングシ地域小学校緑化支援プロジェクト
支援金額：50,000円
- ②団体名：公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会（SVA）
タイ国境ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ図書館支援事業
（絵本・短編集出版1タイトルの一部）
支援金額：100,000円
- ③団体名：NPO法人 日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）
イラク アンバール県における国内避難民への人道支援
支援金額：100,000円

(2) その他の支援

- ① 貧困なくそうキャンペーン（10/1～31）
支援先：ハンガーフリーワールド（ブルキナファソにおける母子栄養改善業）
支援金額：56,067円
支援金にはとつか、東戸塚店の世界貧困撲滅デー（10/17）の売上金額34,410円
キャンペーン期間中、店頭募金に寄せられた21,657円をあてました。
キャンペーンの事前学習会（WE講座）として「ハンガーフリーワールド」の方から、団体の活動状況や、現状の世界の食糧事情を私たちの生活に引き付けて考えるお話をうかがいました。また支援の一環として、「緑のサヘル」製作のカレンダー販売に協力しました。
- ② 命をつなぐチョコレート募金
今年で5年目になる、「日本イラク医療支援ネットワーク」のチョコレート募金今年の募金は福島の子供たちを放射能から守る活動とイラクでの医薬品購入にあてられます。2店舗で320缶分160,000円の募金が寄せられました。
- ③ 東日本大震災復興支援
支援先：日本国際ボランティアセンター（東日本大震災復興支援活動）
支援金額：246,526円
 - ・東日本大震災復興支援募金
とつか店の店頭募金に多くの方のご協力をいただき、15,925円を上記支援金にあてることができました。
 - ・東日本大震災復興支援
11日の震災デーの売り上げ（とつかショップは通年開催、213,464円 東戸塚ショップは3月のみ開催、17,137円）230,601円を支援にあてました。
- ④ 物品販売
3.11に向け、いわき食彩館より福島の商品（とつかショップ9,671円、東戸塚ショップ16,128円）25,799円を仕入れ、両ショップの店頭で販売し、支援としました。
- ⑤絵本を届ける運動（WE講座にて）
1冊2,200円を15冊、33,000円を支援しました。その内18,000円をWE21 ジャパンとつかが負担しました。

⑥ 「アジア・友だち・みらい貯金」

募金箱をとつか、東戸塚店と個人宅に置き寄付金を募りました。

(3) フェアトレード

フェアトレードとは発展途上国の産品を適正な価格で継続的に購入することを通じ立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善と自立をめざす運動です。

フィリピンのベンゲット州の山岳地帯に住む女性達で作ったジンジャーティを両ショップで販売しました。女性たちが家庭菜園に植えている生姜をすりおろして、絞った液と砂糖を煮詰めてパウダー状にしたものがジンジャーティです。風邪の予防薬として日常的に飲まれていて農薬や科学肥料に頼らない自然農法で作られています。1個800円で合計56個販売しました。福島への支援としてオーガニックコットンで出来たコットンベイクを1個800円で合計20個販売しました。

(4) 「WE21 ジャパン」の民際支援

① ジンジャーティのフェアトレード

活動パートナー：「ウバパス」「ダイヨコン」「ランバダ」

金額：2,189,000円

② ベンゲット・グリーン・アクション事業

(フィリピン ベンゲット州における鉱山開発地域の環境活動)

支援先：NGO シュントック財団

金額：906,187円

③ コーヒーの森づくり事業(フィリピン ベンゲット州)

支援先：NGO コーディリエラ・グリーン・ネットワーク

金額：2,373,691円

④ 「アジア・友だち・みらい貯金」

支援先：日本国際ボランティアセンター(JVC) アフガニスタン事業

金額：376,910円

3. WE講座・報告会

WE講座

第1回 5月23日 「東日本大震災東北被災地報告」

講師：日本国際ボランティアセンター 下田寛典さん、白川徹さん

参加者：19名

第2回 9月26日 「世界の飢餓と私たちの食」

講師：ハンガーフリーワールド 儘田由香さん

参加者：15名

第3回 1月31日 「ミャンマー難民キャンプ図書館事業報告と絵本貼りワークショップ」

講師：シャンティ国際ボランティア会 鈴木晶子さん

参加者：17名

報告会

7月23日 「誕生を待つシリアのあしたのために」

講師：JIM-NET 佐藤真紀さん 榎本彰子さん

参加者 23名

4. 広報活動

- (1) WE21 ジャパンとつかの支援事業や運動を紹介するため、また会員への情報共有として「ういっと通信」を3回、「ういっとミニレター」を2回発行しました。
- (2) ショップの宣伝効果として寄付品募集チラシとセールチラシを発行し、おおぜいのボランティアさんの協力により配ることができました。
- (3) WE21 ジャパンのホームページにショップの情報を掲載しました。
- (4) 戸塚コモンズ大会にて、とつか店・東戸塚店紹介の三つ折りパンフレットを配布しました。

5. ありがとうチケット

ボランティアさんへの感謝の気持ちとして、今年度もありがとうチケットを発行しました。

発行及び使用状況

	とつか店			東戸塚店		
	発行枚数	利用枚数	利用率	発行枚数	利用枚数	利用率
2013年度	1652枚	777枚	47%	1640枚	740枚	45.1%
2012年度	2126枚	1131枚	53%	1169枚	721枚	61.6%

6. 「WE21 ジャパン」との連携

- (1) マネージメント会議および経営会議に出席しました。
- (2) イベントチームのメンバーとして、WE21 ジャパンが主催する各イベントに参加しました。

7. 他地域 NPO との連携

エリア連絡会に出席して近隣地域ショップと情報交換をしました。

8. 組織活動

- (1) 運営委員会を毎月開き、WE21 ジャパンとつかの総会での方針にそって討議し活動しました。
- (2) 指定NPO法人取得に向けてチームを作り準備をすすめました。
ショップや地域での協力者等の100筆以上の署名とともに、7月に県へ申請し、12月に「県指定NPO法人」の取得ができました。
- (3) 戸塚区社会福祉協議会のボランティア保険に加入登録しました。
- (4) ボランティアミーティング及びボランティア交流会を開きました。
- (5) 会員数は目標80名に対して、期首75名、新規6名、脱退5名（定款第10条による者を含む）となり目標達成出来ませんでした。

9. 他団体との交流連携

戸塚区内で活動する生活クラブ運動グループで構成される「戸塚まちづくりユニット」に出席し、情報交換をしました。